

最近の管内経済概況

(2020年3月の経済指標を中心として)

～ **新型コロナウイルス感染症などの影響により、弱い動きとなっている** ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、弱い動きとなっている。
- 個人消費は、弱い動きとなっている。
- 観光は、悪化している。
- 公共工事は、減少している。
- 住宅建設は、弱い動きとなっている。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症などの影響により、弱い動きとなっている。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響の拡大、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2020年5月18日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

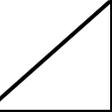
T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2020年5月現在)

発表月	2019年12月	2020年1月	2月	3月	4月	5月	前月との判断比較
総括判断	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている	<u>足踏み状態となっており、足下で新型コロナウイルスの影響がみられる</u>	<u>新型コロナウイルス感染症などの影響により、弱い動きとなっている</u>	
生産活動	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	
個人消費	一進一退となっている	一進一退となっている	<u>一部に弱い動きがみられる</u>	一部に弱い動きがみられる	<u>一部が弱い動きとなっている</u>	弱い動きとなっている	
観光	一部に弱い動きがみられる	一部に弱い動きがみられる	一部に弱い動きがみられる	一部に弱い動きがみられる	<u>悪化しつつある</u>	<u>悪化している</u>	
公共工事	増加している	増加している	<u>減少している</u>	<u>増加している</u>	増加している	<u>減少している</u>	
住宅建設	弱まっている	弱まっている	<u>弱い動きとなっている</u>	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	改善している	改善している	改善している	改善している	<u>足踏み状態となっている</u>	<u>弱い動きがみられる</u>	
企業倒産	件数、負債総額とも減少している	件数は減少、負債総額は増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも増加している	件数は同数、負債総額は減少している	件数、負債総額とも減少している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

※「新型コロナウイルス」の表現は、2020年5月の発表から「新型コロナウイルス感染症」に統一。

※企業倒産は、3月の発表から他の項目と最新のデータ月を統一。このため、3月発表は2月発表と同じ内容を掲載。

 上方修正  据え置き  下方修正

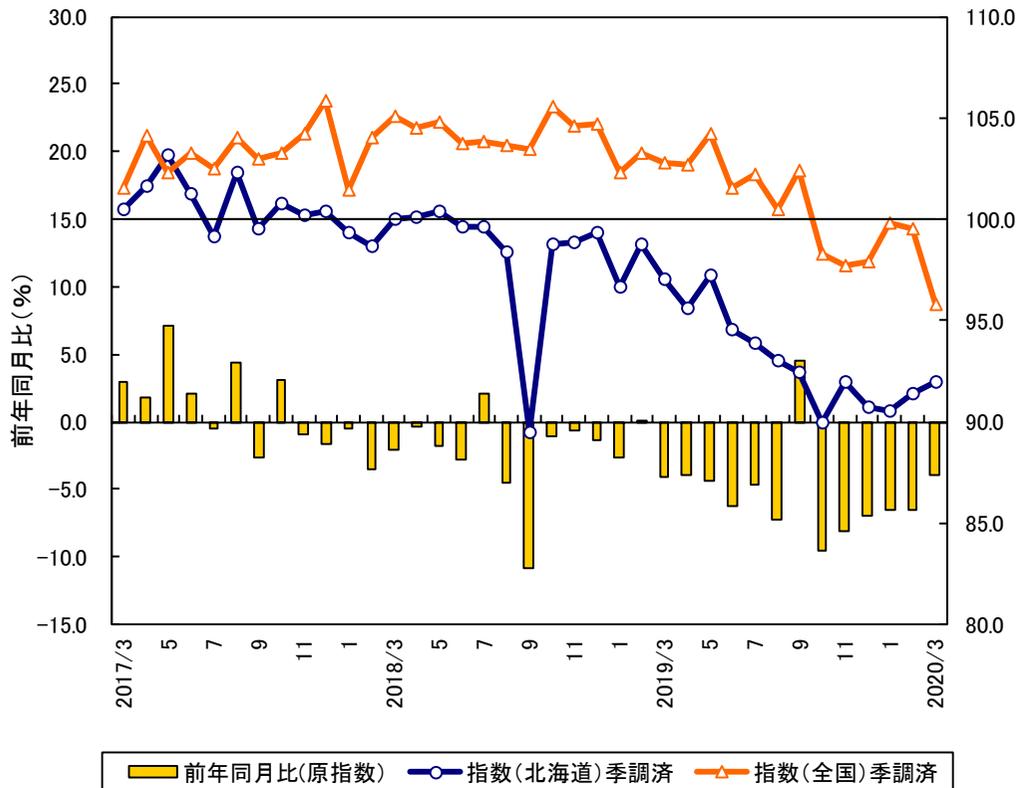
生産活動 ～ 弱い動きとなっている ～

3月の鉱工業生産は、前月比+0.7%と2か月連続で上昇した。上昇業種は、一般機械工業、電気機械工業など3業種となった。低下業種は、輸送機械工業、窯業・土石製品工業など12業種となった。

<3月>
季節調整済指数

北海道(速報)	92.0	(前月比+ 0.7%)
全国(速報)	95.8	(前月比▲ 3.7%)

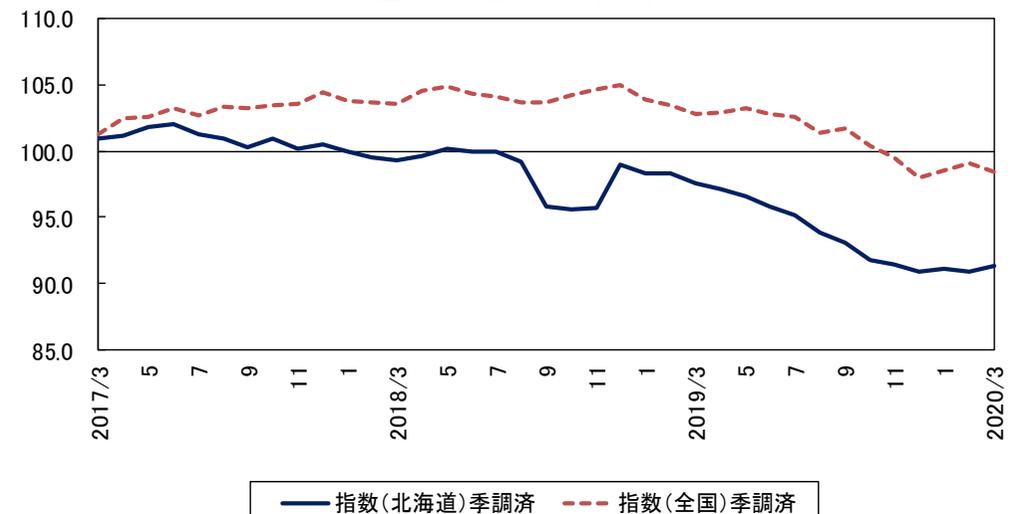
鉱工業生産指数(2015年=100.0)



【ヒアリング内容】

- 公共事業向けの大型製品の受注により、化学機械の生産が増加した。(一般機械工業)
- 本州の工場からの生産ラインの移管などにより、電子部品の生産が増加した。(電気機械工業)
- 札幌市内の再開発関連の工事はあるものの、ホテルなどの新築が少なくなっていることなどから、セメントの生産が減少した。(窯業・土石製品工業)
- 中国向けの自動車部品は新型コロナウイルス感染症の影響により、3月は2月よりさらに減産となった。4月以降は他の国向けにも影響が広がりつつある。(輸送機械工業)

鉱工業生産指数の推移(3ヶ月後方移動平均)



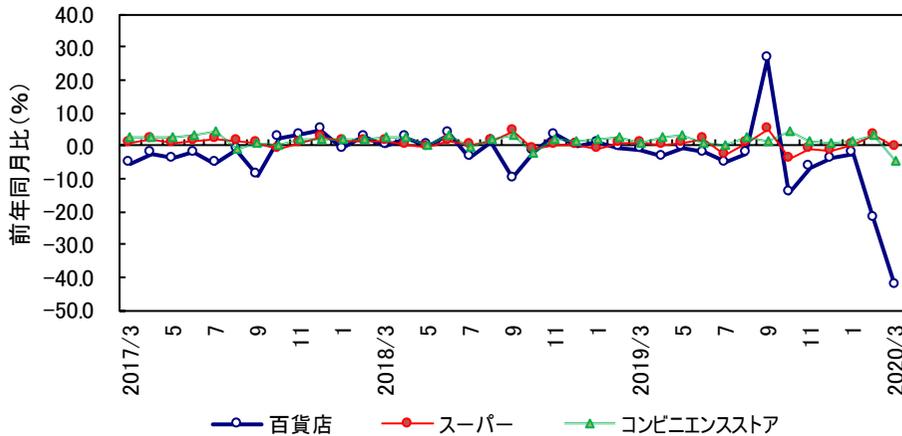
(資料: 経済産業省、北海道経済産業局)

個人消費 ～ 弱い動きとなっている ～

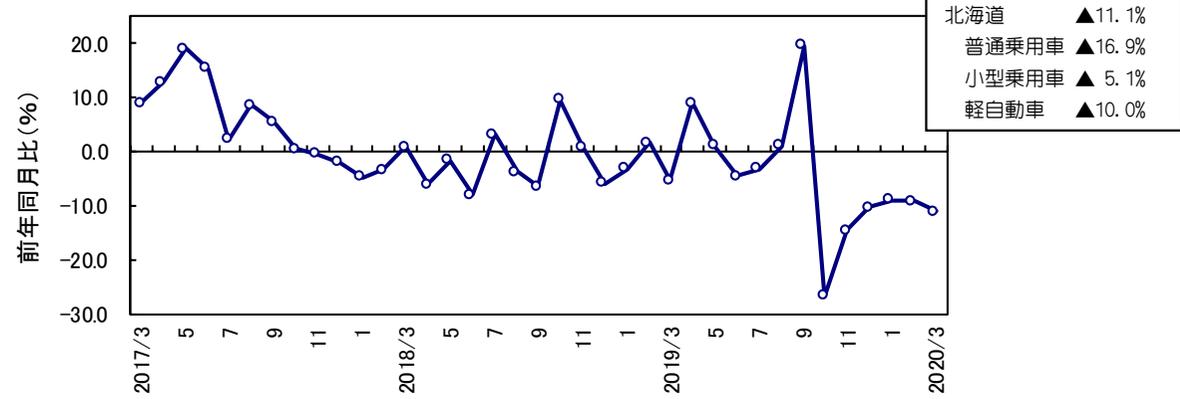
3月の個人消費は、ドラッグストア、ホームセンターは前年を上回ったものの、他の業態は前年を下回った。

- 百貨店は、営業時間の短縮や臨時休業、催事の中止に加え、外出自粛の動きやインバウンド需要の減少などにより、前年同月比▲42.4%と6か月連続で前年を下回った。
- スーパーは、外出自粛による内食需要の高まりから、飲食料品の売り上げは伸びたものの、衣料品などの動きが鈍かったことから、同▲0.3%と2か月ぶりに前年を下回った。
- コンビニエンスストアは、同▲4.9%と17か月ぶりに前年を下回った。
- 家電販売は、同▲12.7%と3か月ぶりに前年を下回った。ドラッグストアは、同+13.3%と4か月連続で前年を上回った。ホームセンターは、同+2.6%と2か月連続で前年を上回った。
- 新車販売は、同▲11.1%と6か月連続で前年を下回った。

百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額増減率の推移(全店)

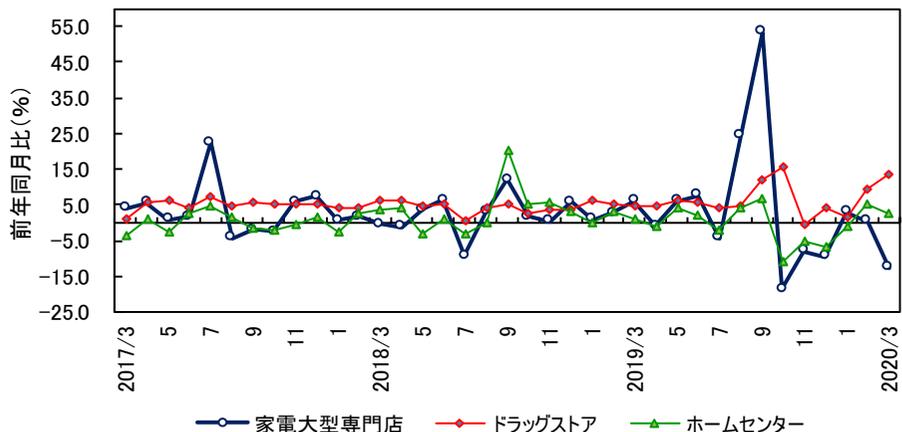


新車登録・届出台数増減率の推移



(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

専門量販店販売額増減率の推移



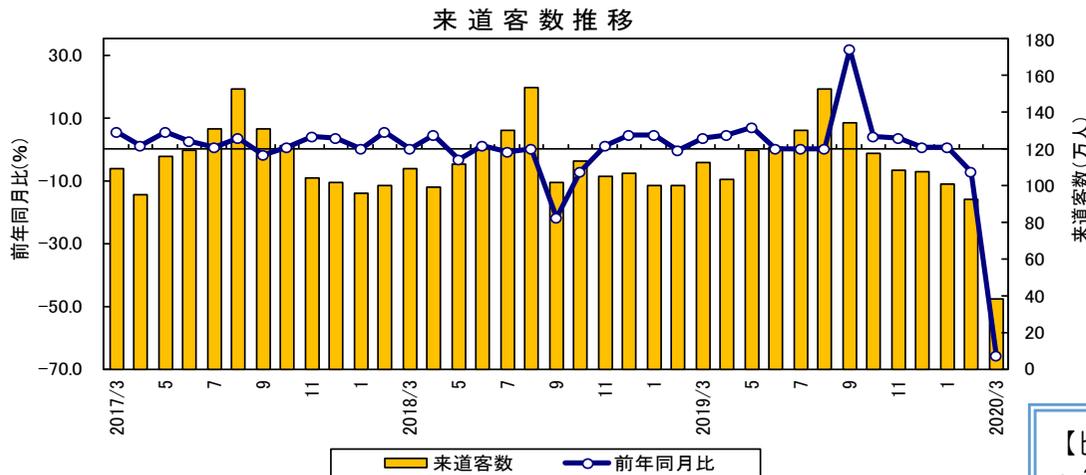
(資料：北海道経済産業局)

【ヒアリング内容】

- 2月末の緊急事態宣言直後から客数が大きく減少し、終了後は売り上げがやや戻ったものの、回復には至っていない。各種イベントが中止されていることに伴い、本来この時期に需要があるはずのスーツなどの動きも鈍くなっている。(百貨店)
- 日常生活に必要な食料品や日用品については、通常どおりかそれ以上の動きとなっているが、滞在時間を短くしようとする傾向があることから、衣料品などの売場を敬遠する動きがみられる。(スーパー)
- 内食需要により、住宅地の店舗の売り上げが伸びている一方で、都市部や観光地の店舗の売り上げが大きく落ち込んでいる。時間帯別でみると、朝や夜の時間帯の売り上げが減少しており、特に夜は売り上げが大きい時間帯だけに影響が大きい。(コンビニエンスストア)

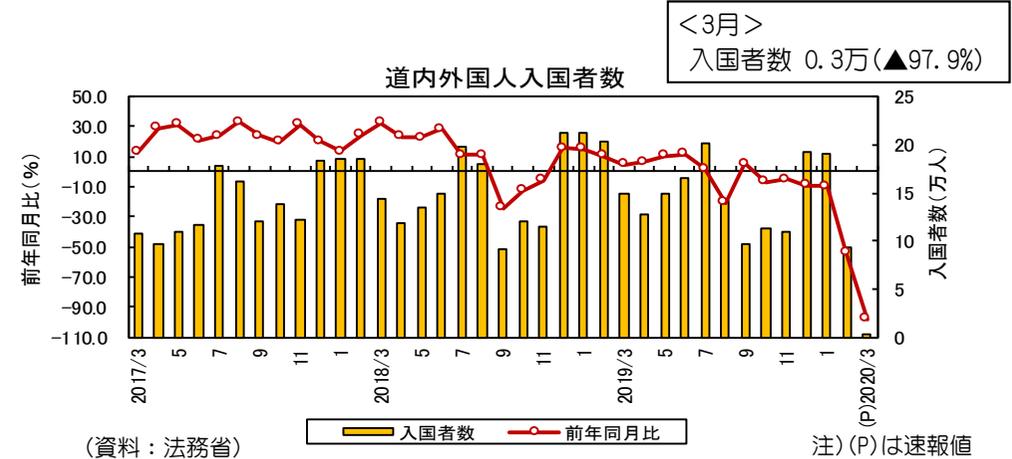
観光 ～ 悪化している ～

3月の来道客数は、前年同月比で▲66.0%と2か月連続で前年を下回った。また、道内外国人入国者数は、同▲97.9%と6か月連続で前年を下回った。



<3月> 来道客数 38.4万人 (▲66.0%)
 ※北海道外から航空機(国内線)、JR(北海道新幹線)、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料:(公社)北海道観光振興機構)

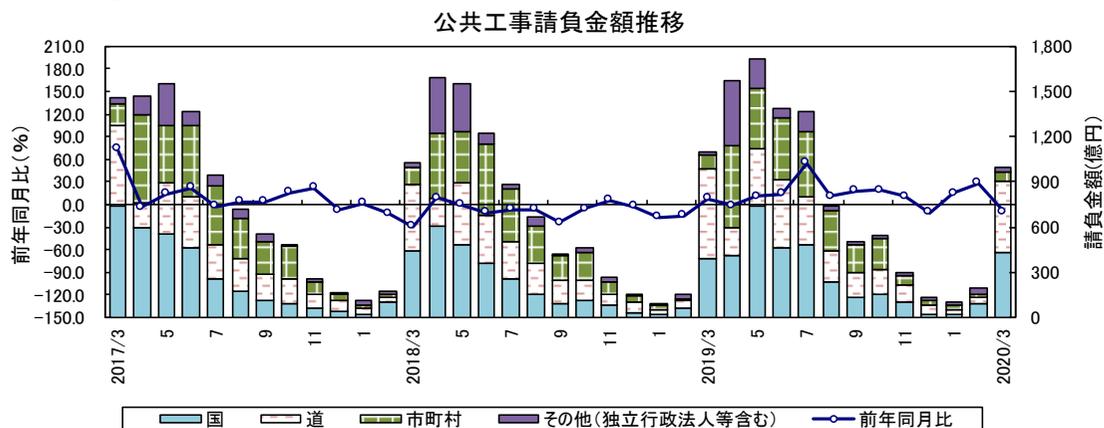


【ヒアリング内容】

- ・3月の緊急事態宣言終了後、3連休は一時的に卒業旅行と思われる若いお客が若干来ていたものの、当地の3月のトータルの入込客数は前年比で8割減。(関係機関)
- ・4月は全国緊急事態宣言、北海道と札幌市の緊急共同宣言が出されたため、4月とGWを合わせた当地の入込客数の状況は、前年比で9割ぐらい減っている印象。(関係機関)

公共工事 ～ 減少している ～

3月の公共工事請負金額は、国が前年を上回ったが、道、市町村が前年を下回り、前年同月比▲9.9%と3か月ぶりに前年を下回った。



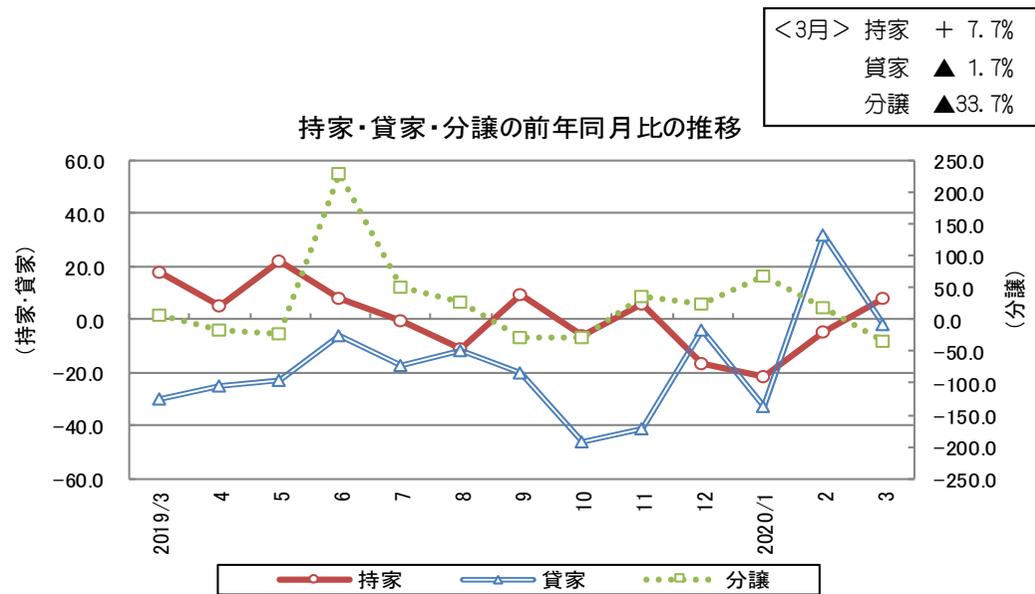
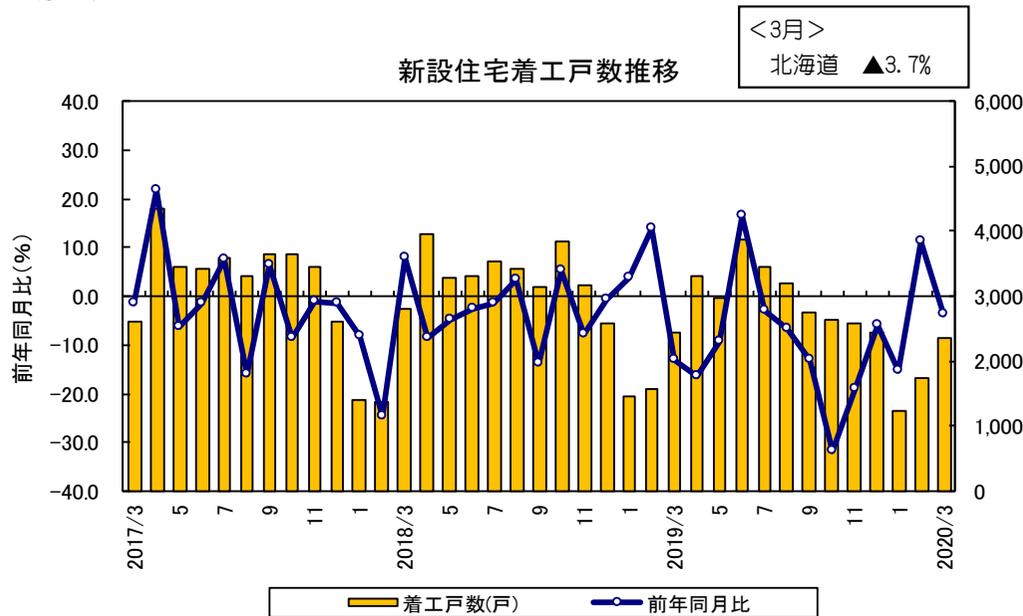
<3月>
 北海道 ▲9.9%
 (内訳)
 国 +10.7% 道 ▲20.9% 市町村 ▲29.3% その他 +6.8%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料:北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 弱い動きとなっている ～

3月の新設住宅着工戸数は、持家は前年を上回ったが、貸家と分譲が前年を下回り、前年同月比▲3.7%と2か月ぶりに前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2019年度の設備投資計画は、全体で前年度比+8.6%と3年連続で前年度を上回った。なお、2020年度は前年度を下回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2020年4月1日発表

	2019年度	2020年度計画
北海道	+ 8.6%	▲ 1.3%
製造業	+ 20.6%	+ 13.2%
非製造業	+ 3.0%	▲ 9.3%
全国	+ 2.7%	▲ 0.4%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2020年3月12日発表

	2019年度	2020年度
全産業	+ 17.8%	▲ 7.6%
製造業	+ 27.1%	▲ 12.9%
非製造業	+ 13.6%	▲ 5.4%

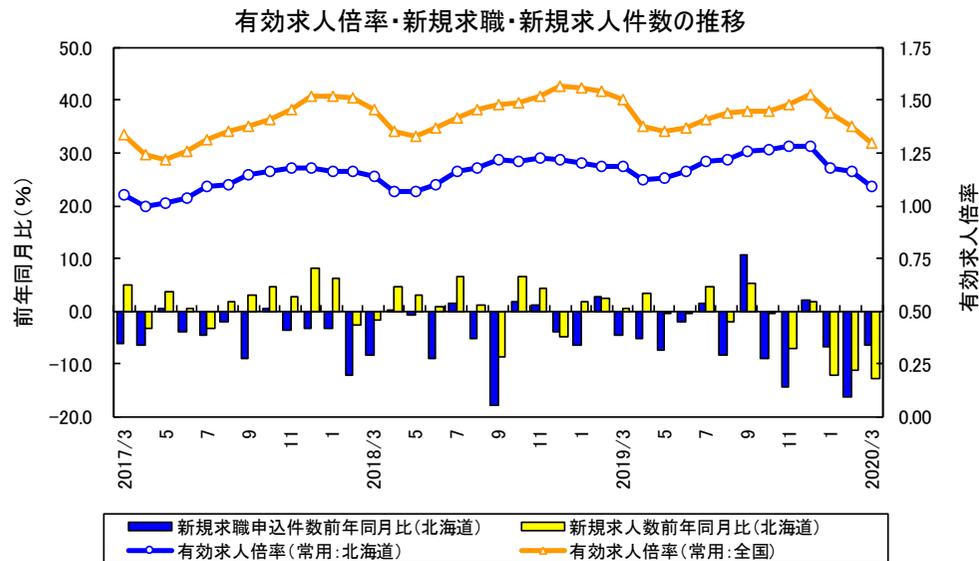
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

3月の有効求人倍率は、1.09倍と前年同月差0.10ポイント減少し、3か月連続で前年を下回った。



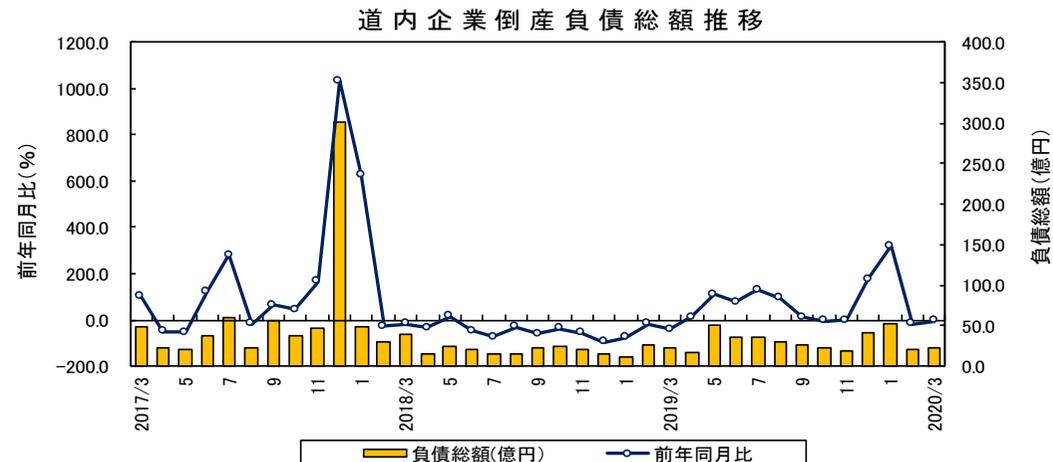
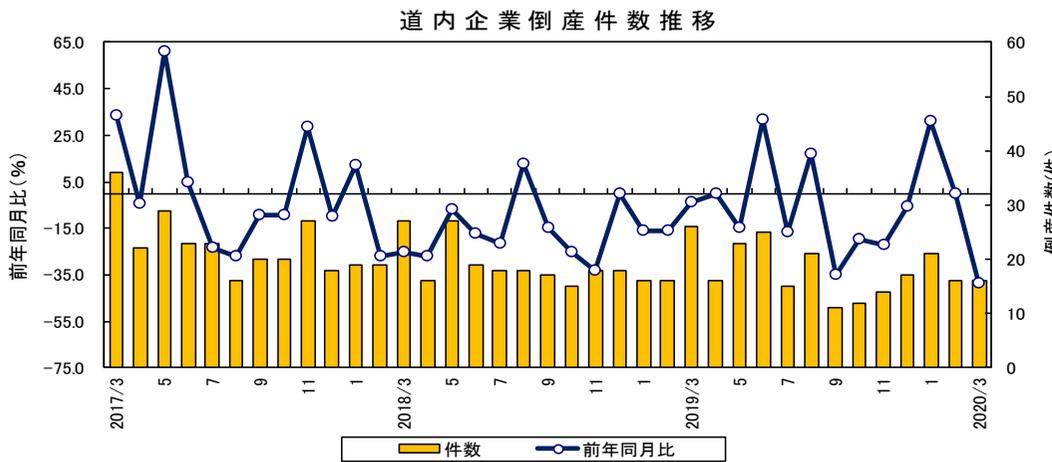
< 3月 >			
北海道	有効求人倍率(常用)		1.09倍
	新規求人数(前年同月比)	▲	12.7%
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲	6.5%
全国	有効求人倍率(常用)		1.30倍

(資料: 厚生労働省、北海道労働局)

【ヒアリング内容】
 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、休業や営業を縮小している企業が増えており、新規の求人を出せる企業が減ってきている。
 (関係機関)

企業倒産 ～ 件数、負債総額とも減少している ～

3月の倒産件数は16件で、前年同月比▲38.5% (10件減) と3か月ぶりに前年を下回った。また、負債総額は22.2億円で、同▲4.1%と2か月連続で前年を下回った。



(資料: (株)東京商工リサーチ)